JHFレポート**210**号 2015年7月20日発行

JHFREPORT





スペイン最大級のPGイベントより。12ページからの「2015年欧州レポート」をご覧ください。撮影:伊尾木浩二

2015年JHF通常総会を開催しました

6月23日(火)、東京都渋谷区の東京 体育館第1会議室において、全国から 47正会員(都道府県連盟)の出席(委任 状4会員、議決権行使3会員を含む)を 得て、2015年通常総会を開催しました。 議題は以下のとおりです。

□報告事項1:2014年度事業報告

□報告事項 2:2014年度決算報告·監査

報告

□決議事項1:貸借対照表及び損益計算

書(正味財産増減計算書)の承認

□報告事項3:2015年度事業計画

□報告事項4:2015年度収支予算

□決議事項2:JHF役員の選任

□報告事項5:日本体育協会加盟につい

決議事項1が承認され、決議事項2 の役員選任は正会員による投票の結 果、理事7名と監事1名が選任されま した(新役員の顔ぶれは次ページをご 覧ください)。

議題に入る前に、JHF教員・スクール事業委員会の委員長ならびに山梨県フライヤー連盟理事長を務められ、昨年11月に急逝された水野良信氏に黙祷を捧げました。

総会の議事録はJHFウェブサイトの「情報公開」ページに掲載します。また、2014年度事業と決算の報告は3ページからご覧ください。



FOR OLL SPORLS OF JOPON
JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

安全飛行で楽しい夏に

いよいよ夏本番。ホームエリアで飛ぶ人もフライトツアーに出かける人 も、判断力を鈍らせないようしっかり暑さ対策をして、安全なフライトを。 特に海や湖、川などが近いエリアでは、着水に十分に気をつけましょう。

新理事・監事が選任されました

6月23日 (火) の2015年通常総会に おいて、正会員による投票の結果、理 事7名と監事1名が選任されました。

新役員は2017年の任期満了(通常総 会開催日)までJHFの舵取りをしてい きます。就任にあたりそれぞれの抱負 を聞きました。



理事 会長 内田孝也(東京都)

総会の役員選任では、立候補10名中 7名だけが理事になりました。その後 の理事会で会長重任の決議を受けま したが2名の反対がありました。真摯 に受け止め、より厳正な役員会運営を 目指す所存です。

総会前日、2020年東京オリンピッ クへ開催地枠で選考される8団体が 発表されました。JHFは日本航空協会 と連携してFAIからのパラグライディ ング2種目のプロポーザル提出をサ ポートしていましたが、落選してしま いました。目に見える成果は得られな くても、このような活動の積み重ねも またハング・パラ振興のために必要だ と考え、努力を続けていきます。



理事 副会長 安田英二郎(神奈川県)

フライヤー登録者数が下げ止まっ たことは明らかですが、フライヤーが 増える外的な要因もありません。これ からはわれわれの努力によってフラ イヤー数を増加させていくことにな ります。全国各地で新規入校者を獲得 していくことが容易になるような手 助けを全国組織として行っていきた いと思います。安全は普及のための必 要条件です。年間死亡事故ゼロを目標 にできるように、そのために事故報告 制度の充実を図りたいと思います。



理事 芦川雄一郎(東京都)

日経平均もITバブル期を越えて好 景気感が漂ってきています。しかし火 山の噴火、ゲリラ豪雨等気象は激しさ

を増してきています。また、ドローン規 制に見られるように、ごく一部の反社 会的な行動が、規制強化、法改正となり ます。

フライヤーが自由に飛べる空、環境 を守るべく微力ながら尽力させていた だきます。



理事 市川 孝(埼玉県)

公益法人の運営は、多くの会員の意 見が民主的に反映される必要がありま すので、理事の職務は事業と予算を公 正で適正に執行することが重要となり ます。また、財政の中心となるのはフラ イヤーの方々から預けられた会費です ので、事業経費を有効に活用し、さらに 運営経費の合理化などによる経費の削 減を図ります。なお、団体の運営には財 政基盤の安定が重要となりますので、 将来にわたる中期的な財務状況に注視 した運営を図ります。



理事 大澤 豊(茨城県)

今期も理事として、長年の懸案のHG 教本改訂完成、デジタル無線機の普及 推進、ハング、パラ競技の公平な運営に 協力します。

安全性の向上、フライヤーの増加、会 員管理システムの整備、財政適正化、普 及事業等、さまざまな課題や問題があ ります。私なりにJHFをより良くする ために微力ながらお力添えをしていき たいと思っています。どうぞよろしく お願いいたします。



理事 日下敏彦(宮城県)

いずれも会員数が1桁台、宮城蔵王 白石エリア、とんがり山エリアの管理 人を始めたばかりの日下です。公約を 実現するべく活動をします。

個人的なことですが、東日本大震災 で絆のありがたさを身にしみて感じま した。赤字のエリア運営では、なおさら 地元との絆が細くなると立ち行かなく なります。

JHF定款には「わが国におけるハン グ・パラ界を統括し、代表する…」とう たっています。次世代を担う若者に「つ ながったひとつの空」を残すにはどう すればいいか考え、皆さんの意見を聞 かせていただき、二期目はそれを実現 するための方策を掲げられ、選任につ ながればいいなと夢みています。



理事 塩坂邦雄(静岡県)

二期目を迎えて、多くの問題を具現 化するために努力する覚悟です。具体 的にはマニフェストにしましたように ①フライヤーの人口の増加を目指すと 共に老人フライヤーの安全対策を検討 します。

- ②地域の抱える問題を、JHFの運営に 生かせるように努力します。
- ③地域振興モデルをさらに進化させ、 パラ・ハングが地域から認知されるよ うにします。

目的達成のため、フライヤーの皆様 のサポートをよろしくお願いします。



監事 岩村浩秀(東京都)

この度、JHF監事にご承認いただき ました。二期目ということで、より一層 法人のために頑張る所存です。

JHFも公益社団となって4期目に入 りそろそろ内閣府の立入検査の時期に なると思われます。まずは、これに内田 会長や市川理事と共に対応するのが重 要な仕事と思っています。

また、一期目では競技会やセミナー への参加が全くできなかったので、も う少し積極的に事業現場への参加を果 たしたいと思っています。

これから2年、しっかりと責任を果 たしたいと思いますのでよろしくお願 いします。

会長・副会長は、2015年通常総会後 の理事会で新理事の互選によって決ま りました。

約2年間、会員のため、ハング・パラ グライディングの未来のため活動する 8名にご協力をお願いします。

JHFの2014年度の事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2014年度事業報告」より

2014年4月1日から2015年3月31日 までの1年間にJHFが取り組んできた 事業を報告します。

I 概要

2014年度は、ハンググライディング 女子世界選手権で日本人選手が世界 チャンピオンになり日本チームがチーム優勝、パラグライディング世界選手 権で女子第2位、第4回アジアビーチ ゲームズでは、エアスポーツ・パラグラ イディング・アキュラシー部門で日本 チームが第3位になるなど、日本人フ ライヤーの活躍がありました。

安全と普及のための取り組みとしては、3年に一度の教員検定員研修会を開催したほか、ハンググライダーのベテランパイロットを対象としたブラッシュアップセミナー、パラグライダーパイロットを対象とした全国安全セミナー、第3回JHFフォトコンテストを開催しました。

対前年比でみると、ハンググライディング技能証発行数は増加、パラグライディング技能証発行数は減少、有効フライヤー会員数は約1.5%の減少となっています。

1. 収支の現状

JHFの財務状況は単年度で見た場合、昨年度に続いて支出が収入を上回ることとなり、赤字財政となっています。この額は、昨年度に比べると縮小していますが、収入は2013年度とほぼ同額ですので、施策にかけた資金規模が減ったことになります。今後は、従来にも増してフライヤー会員増加に資する施策を行うとともに、さらに収支のバランスを図る運営が求められます。

JHFは費用総額のうちの約60%で直接的な事業を行っており、そのうち補助金などを除いた約35%は理事会で配分増減を決めています。必要な新企画や重点投資案件の経費については、ほかとのバランスを図りながら効果的な投入に務めてまいります。

2. 普及振興事業の実施等

第3回JHFフォトコンテストを開催 し、126作品の応募がありました。加藤 文博氏の「眩しい空」が最優秀賞に。

ハンググライダーのパイロットを対象にセーフティー・トーイングによるブラッシュアップセミナー (安全セミナー)を1回開催、パラグライダーのパイロットを対象にパイロットセミナーを全国10ヶ所で開催、204名が受講しました。

教員・助教員の知識や技能の維持向上を行うことで、JHFフライヤー会員への安全フライト啓蒙活動を推進するため、教員検定員が中心となり教員助教員更新講習会を全国18ヶ所で開催、141名が受講しました。

教員検定会にて、9名が新しく教員 になりました(PG 9名)。

また、教員検定員研修検定会を実施、 検定員27名を選任しました。

3. 特記事項

- 1)第37回鳥人間コンテスト選手権大会に協賛 7月26日(土)·27日(日) 滋賀県彦根市松原水泳場周辺
- 2) 埼玉スカイスポーツフェスタ2014 を共催 10月12日(日) 埼玉県熊谷市 妻沼滑空場
- 3)第20回スカイスポーツシンポジウムに協賛 11月29日(土) 日本大学理工学部駿河台校舎
- 4)パラグライダー日本記録(目的地直 線距離)を更新
- 一般財団法人日本航空協会が山崎能啓 氏の目的地直線距離215.4km(ブラジ ルのキシャダ〜ボランガ)の飛行を日 本記録として承認。
- 5) 航空スポーツ賞を受賞

平成26年度一般財団法人日本航空協会 航空関係者表彰式にて、ハンググライ ディングクラス1女子世界選手権優勝 の礒本容子選手ならびに日本代表チーム(大沼浩チームリーダー、礒本容子・ 野尻知里・桜井さやか・谷古宇瑞子・内 田秀子・鈴木樹子各選手)が航空スポー ツ賞を受賞。また、日本記録証が平木啓 子氏に授与された(パラグライダーー 般/女性直接距離332km)。

6)子供の航空スポーツ教室に協力 愛知県フライヤー連盟が、一般財団法 人日本航空協会の航空スポーツ教室 「スカイ・キッズ・プログラム」に協力。 2月15日(土)実施。

Ⅱ 事項別状況

1.組織

1)会員数

正会員 47名 フライヤー会員 8,372名 (2015年3月末有効登録数) 賛助会員 14名

2)役員構成(2015年3月末現在) 理事 9名 (うち会長1名、副会長2名) 監事 2名

2. 会議等の開催

1)総会

4月21日(月) 6月通常総会開催通知 6月17日(火) 11:00~17:00 東京体 育館第一会議室 (東京都渋谷区千駄ヶ 谷)にて開催

議案

報告事項1:2013年度事業報告について 報告事項2:2013年度決算報告について 決議事項1:貸借対照表及び損益計算書 の承認について

報告事項3:2014年度事業計画について 報告事項4:2014年度収支予算について 2)理事会

□第1回理事会

5月13日(火) 出席:理事9、監事2

□第2回理事会

9月3日(水) 出席:理事9、監事2

□第3回理事会

11月13日(木) 出席:理事9、監事2

□第4回理事会

3月5日(木) 出席:理事9、監事2

□文書理事会

4月4日·7日·16日、5月15日·28日、6月9日·12日、7月30日、8月11日·12日·18日、10月9日、11月27日、



6月23日の2015年通常総会より。

1月13日・27日(2件)・30日、2月4日、

3月13日 3)委員会

□ハンググライディング競技委員会 競技会開催時に実施

□パラグライディング競技委員会 競技会開催時に実施

□補助動力委員会

□教員·スクール事業委員会 6月17日、11月26日、12月2日

□安全性委員会 6月17日、10月21日

□制度委員会

11月27日、1月21日

□ハングパラ振興委員会

5月20日、2月24日

□役員選任実行委員会

□委員長理事合同会議

3月3日

*このほか電子メール会議を実施し、 経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

1)普及振興活動

□JHFレポートを発行(4月、7月、10月、1月)。*独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受けて発行しています。

□都道府県連盟事業費の交付

□日本学生フライヤー連盟へ助成金交付

2)フライヤー会員登録

登録数:2014年度 新規・更新5,903人 (2013年度 5.841人)

3)技能証発行

679,667

149,360

144,110

57,717,466

0

□HG:227枚(2013年度 190枚)

□PG:1,040枚(2013年度 1,111枚)

□MPG:41枚 (2013年度 34枚)

□レスキューリパック認定証 41枚

(新規8·更新33)

4)競技会の主催・公認・後援

□HG:15件(うちFAIカテゴリー1・

2:2件)

□PG: 29件(うちFAIカテゴリー1・

2:3件)

□HG·PG同時開催: 5件

5)競技会の開催

□HG:

·日本選手権

2014年3月19日~23日

茨城県板敷山エリア 参加55人 日本 選手権者:大門浩二 女子日本選手権

者:礒本容子

・ハンググライディングシリーズ

第1位:大門浩二

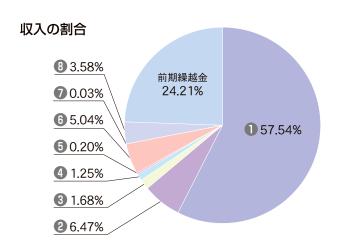
女子第1位:野尻知里

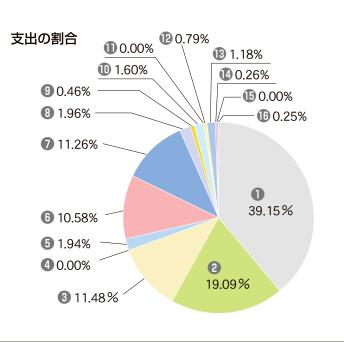
・ハンググライディングXCリーグ

第1位:田中元気

2014年度決算報告

	収	入	(単位:円])
● 会費等				40,101,500
② 技能証の発行に	基づく	収入		4,506,150
③ 競技に関する収力	λ			1,172,500
4 教本等の頒布に	半う収	八		870,150
6 検定会参加費				140,000
補助金				3,512,377
7 機体登録費				20,000
8 その他				2,496,052
前期繰越金				16,875,290
合 計				69,694,019
	支	出	(単位:円])
● 会員サービスの7	ために	_		22,597,081
② JHFの維持運営の	ため	に		11,016,218
3 都道府県連盟の	補助σ)ため	に	6,624,652
4 公益事業の推進の	の た め	かに		0
⑤ 世界選手権、ア	ジア選	₹手権·	ゃ	1,121,546
検定会のための				
快足去りための作	責立			
6 広報・普及活動の		らに		6,106,556
	のため		のために	6,106,556 6,500,000
6 広報・普及活動の	のため		のために	
⑤ 広報・普及活動の⑦ 日本選手権や国債	のた <i>め</i> 体デモ	こスポ	のために	6,500,000
⑤ 広報・普及活動の⑦ 日本選手権や国例③ 競技のために	かた <i>め</i> 本デモ 竟のた	こスポ	のために	6,500,000 1,133,773
⑤ 広報・普及活動の⑦ 日本選手権や国の③ 競技のために③ よりよい教習環境	かため 本デモ 竟のた めに	こスポ	のために	6,500,000 1,133,773 267,317





13 事故調査や安全のために

14 海外との交流のために

動力

№ 総会のために

合 計



2014年HG女子世界選手権で礒本容子が世界一の座に。

\square PG:

·日本選手権

2014年10月10日~13日 岐阜県池田山エリア 参加73名 日本選手権としては不成立 総合・女子第1位:平木啓子 ・ジャパンリーグ(参加人数93名) オープンクラス 1位:成山基義 女子1位:伊藤弥生

スポーツクラス 1位:田中健 女子1位:高田奈緒

・ジャパン2リーグ(参加人数39名) 天候不良のため2大会不成立

・クロスカントリーリーグ(72本)1 位:中里勝

最長フライト:五位渕孝幸(132.7km)

·日本選手権

 \square PGアキュラシー:

2014年7月26日~27日 石川県獅子 吼高原エリア 参加28名 日本選手権



2014年HG女子世界選手権。表彰台中央の日本チーム。

者:吉富周助 女子日本選手権者:伊藤まり子

・アキュラシージャパンリーグ(参加人 数42名)

スクラッチクラス 1位:横井清順 女子1位:伊藤まり子

ハンディキャップクラス 1位:横井 清順

ルーキークラス 1位:大和田正昭 6)スクール・エリア情報の収集及び公開

□スクールサイト登録校 150件(うち 新規登録校6件、削除4件)

□エリア情報掲載 178件

7)海外関係団体活動

□CIVL総会 2015年2月21日~22日 セルビア 出席者:岡芳樹デレゲイト 8)世界選手権へのチーム派遣

□第13回ハンググライディング女子世 界選手権/第6回ハンググライディン グ・クラス5世界選手権/第1回ハン



2015年PG世界選手権。平木啓子が女子2位に。

ググライディング・クラス 1 スポーツ クラス世界選手権

参加日本選手13名 2014年6月21日~ 7月5日 フランス アヌシー

□第20回ハンググライディング・クラス1世界選手権

参加日本選手 9 名 2015年 2 月28日~ 3 月13日 メキシコ バジェ・デ・ブラボー □第14回パラグライディング世界選手権 参加日本選手 6 名 2015年 1 月10日~ 24日 コロンビア ロルダニジョ □第 4 回アジア・ビーチ・ゲームズ

□第4回アンア・ピーナ・ゲームス 参加日本選手4名 2014年11月12日~ 23日 タイ プーケット

9)その他

□機体型式登録 12件 (PG10件、HG 2件)

□機材情報登録 0件(PG)

2014年度の委員会活動

JHFの事業の多くは、各委員会の活動によります。以下は2015年通常総会に提出された「2014年度委員会活動報告補足」です。(事業報告と重複する部分があります。)

ハンググライディング競技委員会

委員長:板垣直樹

新は随時実施。

- 1)ルールブックの改訂
- 2) WEB登録によるエントリーの簡素化 3)委員会ホームページの運営 大会公認案内、エントリー案内等の更
- 4)日本選手権の開催 2014年日本選手権開催(茨城県板敷) 2014年3月19日~23日 55名参加 タスク2本成立 日本選手権者:大門 浩二 女子日本選手権者:礒本容子 2014年クラス5日本選手権開催(茨城 県足尾) 2014年10月10日~13日 25

名参加 タスク3本成立 日本選手権 者:板垣直樹

5)ハンググライディングシリーズ管理運営 参加人数:83名 1位:大門浩二、2位: 田中元気、3位:鈴木博司

女子1位:野尻知里

6)ハンググライディングXCリーグ管理運営1位:田中元気(201.32km)

7) ハンググライディング女子世界選 手権・クラス5・クラス1スポーツクラ ス世界選手権 (フランス アヌシー) 2014年6月21日~7月5日

日本代表チーム(女子6名: 礒本容子、 野尻知里、桜井さやか、谷古宇瑞子、鈴 木樹子、内田秀子。スポーツクラス1 名: 岡田伸弘、クラス5 6名: 古坂学 俊、山本剛、富原淳、塩野正光、太田昇 吾、小林正和、チームリーダー1名: 大 沼浩)を派遣

女子世界選手権者:礒本容子

国別:日本チーム 第1位

8) ハンググライディングクラス1世 界選手権(メキシコ バジェ・デ・ブラボー) 2015年2月28日~3月13日 日本代表チーム(8名:砂間隆司、太田 昇吾、大沼浩、鈴木由路、外村仁克、石坂 繁人、牟田園明、岡田伸弘、チームリー ダー1名:北野正浩)

パラグライディング競技委員会

委員長:岡 芳樹

- 1)ルールブックの改訂
- 2) WEB事務局・ホームページ管理
- 3) 第14回パラグライディング世界選手権(コロンビア、ロルダニジョ:1月10日~24日) へ選手派遣(男子5名、女子1名。呉本圭樹、上山太郎、成山基義、植田真吾、平木啓子以上チームメンバー、個人参加で廣川靖晃)

総合1位:オノラン・アマー (フラン

ス)、2位:ミハエル・マウワー (スイ ス)、3位:トルステン・シーゲル(ドイ ツ)、16位:呉本、49位:上山、67位:廣川、 74位:平木、83位:植田、104位:成山 女子1位:福岡聖子(フランス)、2位: 平木啓子、3位:ニコル・フェデレ(イタ リア)

国別1位:ドイツ、2位:スロベニア、3 位:スペイン、13位:日本

4) 第2回パラグライディング・アキュ ラシーアジア選手権(マレーシア、ラナ ウ:2014年3月12日~19日)へ選手派 遣(男子6名、女子2名。横井清順、岡芳 樹、吉富周助、古賀光晴、水野良信、東武 瑞穂、伊藤まり子以上チームメンバー、 古田岳史:個人参加)

総合1位:タナパット・ルアンジャム (タイ)、2位:マ・チャン(中国)、3位: マ・レイ(中国)、5位:吉富、7位:岡、9 位:東武、10位:水野、14位:古賀、16位: 横井、19位:古田、39位:伊藤

女子1位:ナナパット・プチョン(タ イ)、2位:東武瑞穂、3位:チャンチカ・ チャイサヌク(タイ)、10位:伊藤まり 子

国別1位:タイ、2位:日本、3位:中国 5) 第4回アジア・ビーチ・ゲームズ(タ イ、プーケット:11月12日~23日)へ選 手派遣(男子4名。岡芳樹、川村眞、古田 岳史、小松理樹)

男子国別1位:韓国、2位:インドネシ ア、3位:日本

男子個人1位:ウィディアナント・トー マス(インドネシア)、2位:ウオン・ヨ ンモック(韓国)、3位:ハ・チキョン(韓 国)、6位:川村、10位:岡、21位:小松、 23位:古田

- 6) Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、 AJリーグ管理
- ・Jリーグ結果(参加人数93名)

オープンクラス 1位:成山基義、2 位:小幡洋三、3位:若山朋晴

オープンクラス女子 1位:伊藤弥生、 2位:高田奈緒、3位:平木啓子

スポーツクラス 1位:田中健、2位: 高田奈緒、3位:川上輝峰

スポーツクラス女子 1位:高田奈緒、 2位:山下敦子、3位:早坂真有美

·J2リーグ(参加人数39名)

天候不良のため2大会不成立

·XCリーグ(26名、72本)

1位:中里勝(309.4km)、2位:二三四 藤昭 (288.3km)、3位:中目みどり (279.5 km)

最長フライト:五位渕孝幸(132.7km) ·AJリーグ(参加人数39名)

スクラッチクラス 1位:横井清順、2 位:古賀光晴、3位:岡芳樹

スクラッチクラス女子 1位:伊藤ま り子、2位:柳井維都花、3位:内田薫 ハンディキャップクラス 1位:横井 清順、2位:古賀光晴、3位:小松理樹 ルーキークラス 1位:大和田正昭、2 位:該当者なし、3位:該当者なし

7) 2014年度日本選手権開催(愛知県 池田山エリア) 2014年10月10日~13日 タスク2本成立/4日 73人参加 規 定により日本選手権として不成立。

総合1位:平木啓子、2位:上山太郎、3 位:武貞伸明、4位:小幡洋三、5位:伊 藤弥生、6位:植田真吾

女子1位:平木啓子、2位:伊藤弥生、3 位:高橋美佳

スポーツクラス1位:大橋直史、2位: 是枝秀樹、3位:青木政昭

スポーツクラス女子1位:高橋美佳、2 位:河村葉子、3位:中目みどり

8) 2014年度アキュラシー日本選手権 開催(石川県獅子吼高原エリア)2014 年7月26日~27日

8ラウンド成立28人参加 規定により 日本選手権として成立。

総合1位:吉富周助、2位:横井清順、3 位:水野良信、4位:岡芳樹、5位:伊藤 まり子、6位:古賀光晴

女子1位:伊藤まり子、2位:小川由希 子、3位:菊田久美

ハンディキャップ1位:吉富周助、2 位:横井清順、3位:水野良信

安全性委員会

委員長:桂 敏之

- 1) 運用経費の圧縮と効率的な運用を 目的として、委員会の開催はメール通 信による稟議で行った。
- 2)安全セミナー開催・HGブラッシュ アップセミナー (1ヶ所)、PG全国パ ラグライダーパイロット安全セミナー (10ヶ所)を開催した。
- 3) DHV・エアターコイズ・PMAへの 訪問・調査を行った。
- 4)事故調査と報告
- 5)事故情報データベースの継続整備

教員スクール事業委員会

委員長:水野良信、山谷武繁

1) 教員検定員研修検定会にて教員検 定員を選任(27名)

- 2)教員検定会 PG 9名 HG 0名
- 3) HG、PG教本改訂の検討
- 4) 教員助教員更新講習会 18ヶ所 141名受講
- 5) レスキューパラシュートリパック 認定証についての見直し
- 6)安全セミナープログラムの作成(安 全性委員会と合同)

制度委員会

委員長:小林秀彰

- 1) JHFに関わる制度の定款、規約、規 程、規則等の文書管理
- 2)全国クラブ、エリア登録規程の提案
- 3)スクールの登録規程の改訂提案
- 4) FAI技能記章規程改訂 (アキュラ シー部門追加)の提案
- 5) FAI技能記章交付規程の提案
- 6) FAI技能記章申請書の提案
- 7) パイロットセミナーのテキスト作
- 8) ハンググライダーのテキスト全面 改訂作業に協力
- 9)公益財団法人日本体育協会の組織、 保険の調査結果の報告

補助動力委員会

委員長:須藤 彰

- 1)補助動力教本編集(最終段階)
- 2)下総航空基地安全会同に参加
- 3) 重大事故発生のため意見交換をした (高圧線等に引っかかる事故など)。

ハングパラ振興委員会

委員長:井上 潔

- 1)初顔合わせ会議(5月)
- 2)遠隔会議環境の準備(各委員)
- 3)学生との意見交換会(6月)
- 4) ハング女子世界選手権の報告会お よび祝勝会開催への協力(8月)
- 5)メディアへの情報提供(制作会社等 からの問い合わせへ情報提供)
- 6) ハンググライダーのテキスト全面 改訂作業に協力
- 7) ハンググライダーのパンフレット (紹介版)検討
- 8)パラグライダーのパンフレット(解 説版)検討·作成
- 9)学生向け就職セミナーの検討

役員選任実行委員会

委員長:荒井 稔

2015年役員選任の手続き、実施

JHFの動き

機体情報登録された機体を JHFレポートに掲載します

フライヤー会員登録、技能証制度、機体登録制度が、JHF活動の骨子となっている三本柱です。この三本柱のひとつである機体登録制度をより広く周知させていくために、今後新規に登録された機体登録情報を、JHFレポートに掲載していくことになりました。

現在、JHFでは二つの機体情報登録 制度、「型式登録」と「機材情報登録」を 運用しています。

日本のハンググライディング初期に始まった「型式登録」は、現在、JHF安全性委員会が審査し判定しています。 手続きが完了した機体には登録番号を付与し、JHFより登録証明書を発行します。

また、2010年11月より「機材情報登録」を、より広い範囲の機体情報を提供するために追加運用しています。

「機材情報登録」は、輸入者/製造者 販売者が、販売機材を届け出て登録 を行うことで責任の所在を明らかに し、JHFとして実態を掌握することを 目的としています。「機材情報登録」の 後、書類を整え正式に「型式登録」が行 われることも期待しています。

これらの「型式登録」や「機材情報登録」が活性化していくことにより、責任の所在を明らかにするだけでなく、安全性が確認されたハンググライダー・パラグライダーの機材情報をフライヤー会員の皆様に提供することができるようになります。また、技能証に応じた無理のない機材選択の参考としていただき、安全性の向上につながることを期待しています。

さらに「機材情報登録」は機体本体だけではなく、ヨーロッパ認証などで安全性の確認がされているハーネス、レスキューパラシュート、ヘルメット等にも対象を広げています。

空中衝突を防ぐために ケーススタディ準備中

空の世界にも交通ルールはあります。しかし、私たちが普段飛んでいるのは、山の尾根に近く、上昇風の吹く狭い範囲です。狭い空域に、サーマルを求めて何機ものグライダーが群がって飛んでいるのが実情です。そういうところ

に、本来、広い空や海を通行するために 作られた交通ルールを持ってくるだけ では安全を図ることができません。

そこで、JHFでは安全性委員会を中心に空中衝突防止のためのケーススタディを準備中です。狭い空域で飛行するときにパイロットはどういう点に注意したらいいか、どうしたら空中衝突を防ぐことができるか、いろいろなケースを想定して安全なフライトを実現する方法について考えていきます。

アキュラシー世界選手権日本代表メンバーを決定

第8回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権が、2015年8月9日~17日に、インドネシア西ジャワ州のプンチャク(Puncak)で開催されます。これに出場する日本代表選手を決定しました。日本チーム各選手への声援をお願いします。

[日本代表選手]

横井清順 国際選抜ランキング1位 古賀光晴 国際選抜ランキング2位 岡 芳樹 国際選抜ランキング3位 (岡選手はチームリーダー兼任) 吉富周助 国際選抜ランキング5位

吉富周助 国際選抜ランキング5位 川村 眞 国際選抜ランキング6位 伊藤まりこ 国際選抜ランキング女子

[個人エントリー選手] 古田岳史 小松理樹

菅野剛広



前回アキュラシー世界選手権1位のチェコチーム。

三つの日本選手権を 9月・10月に開催します

三つの日本選手権を今年は下記の日程で開催します。ぜひご参加/ご観戦ください。大会要項などはJHFウェブサイト、競技委員会のページに掲載する予定です。



2014ハンググライディング日本選手権より。

□ 9月19日~23日 2015ハンググライディング日本選手権 IN足尾

□10月9日~12日 2015パラグライディング日本選手権in 足尾

□10月10日~12日 2015パラグライディングアキュラシー 日本選手権inGETO

2016年JHFカレンダーの写真を 8月末まで引き続き募集中

2016年JHFカレンダーに使用するために、ハンググライダー、パラグライダーを中心にした季節感のある写真や楽しい写真を募集します。

ご応募いただいた作品の中から、表紙と1月から12月までの各月分の合計13作品を採用し、2016年カレンダーに使用する予定です。賞金はありませんが、採用させていただいた方にはカレンダーを10部ずつお送りします。

カレンダーは一般に販売するほか新聞社や他のスポーツ団体、行政機関等にも配布しているものです。ぜひご協力をお願いします。

応募締切は2015年8月31日 (月)。お 一人10作品まで応募できます。詳細は JHFウェブサイトのトピックス (2015 年4月17日)をご覧ください。



2015年カレンダー同様、楽しい写真をお待ちしています。

JHFの活動やお知らせはJHFウェブ サイトのトピックスでご覧ください。





レッグベルトつけ忘れ/着水事故を防ぐ。

JHF安全性委員 伊尾木 浩二

6月24日にパラグライダーのハーネ スレッグベルトつけ忘れによる重大事 故が発生しました。事故者は約10年の フライト経験を持つパイロットでし た。ハーネスはポッドハーネスのゲッ トアップシステムです。

また、今年はすでにモーターパラグ ライダーとパラグライダー、2件の着 水による重大事故が起きています。

これ以上同様の事故を繰り返さない ために、防止方法をお伝えしたいと思 います。

レッグベルトつけ忘れ

事故情報の共有

欧州では近年でもレッグベルトつけ 忘れの事故報告を聞いています。日本 では約10年前に同様の死亡事故が発生 し、各スクール、メーカーが事故対策に 取り組みました。しかし、6年前にも同 じレッグベルトつけ忘れによる死亡事 故が発生し、ハンググライダーでも3 年前に死亡事故が起きています。今回 も同様の事故が発生したことを受け、 レッグベルト付け忘れという事故を絶 対に再発させないために新たな考え 方、対策をしなければいけないと考え ています。そこで、以下のような取り組 みをお願いしたいと思います。

初心者がフライトするとき「ベルト をつけないと落ちる」という恐怖心が

あり何度もベルトを確かめるかもしれ ません。また、自分を信用できないから こそ何度も確認の行動をとることもあ るでしょう。しかし、ある程度慣れてく ると飛ぶための恐怖心はやがて無くな り、レッグベルト問題に限らず、慣れか らわずかな不注意により事故が起きて います(たとえばラインの絡みなど)。

パラグライダーを趣味として飛ん でいる以上、初心者でも経験が30年近 いパイロットでも、同じレベルで常に 安全意識を持つことが最も重要だと言 えます。また、皆が安全に楽しく飛べる ように、経験の浅い人たちに過去の事 故について教えるなど、インストラク ター以外のパイロットの協力も必要だ と感じています。過去の事故に学ぶこ とによって、安全性を高める努力を続 けていきましょう。

注意点と対策

①脱落防止システムがないハーネスも ある。

ポッドハーネスには、Tバックル、 ゲットアップシステムがありますが、 ゲットアップシステムには脱落防止装 置が付いていないものも存在します。 3、4年前からベルトつけ忘れを別のパ イロットが確認できるように、ハーネ スのレッグカバー (ポッド部分) の改 良がメーカーに問われ、大幅な改良が 義務づけられた話をDHVから聞いて

います。ポッドハーネスを装着しピチ ピチになった状態では、視認性が悪く ベルトがついているかどうか確認しず らいため、改良されたということです。 ②脱落防止システムが絶対に安全とい うことではない。

ハーネスから脱落する原因の一つ に、フロントコンテナ、フロントレス キューなどがあげられます。たとえば、 ポッドハーネスのほとんどはフロント コンテナが装着されます。そこでベル トをつけ忘れ、フロントコンテナのみ を取り付けて離陸後、脱落ということ になります。

ゲットアップシステムで脱落防止装 置が付いていれば、フロントコンテナ を取り付ける際に脱落防止装置の装着 が必須であるため、脱落を防ぐことが できます(あるメーカーでは販売され ています)。また、ポッド以外のレギュ ラーハーネスでは、脱落防止システム が装備されていても、後付けのフロン トコンテナ、フロントレスキューを取 り付けた場合、ゲットアップであろう とTバックルであろうと、チェストベ ルトをつけ忘れてもフロントコンテナ のみの支えで飛んでしまい、空中でパ イロットの体がずれ落ちてしまうこと があります。

脱落防止装置が付いていても、正し い手順で装着しないと脱落をしてしま



ポッドハーネス・ゲットアップシステムの 脱落防止装置装備例

フロントコンテナを取り付ける際に脱落 防止システムが連携されるのがポイン ト。もしもゲットアップの両側2個のメ インバックルが装着されなくても、フロ ントコンテナを取り付けるためには、小 型双方向オス型金具(手で持っている部 分)を装着しなければいけない。オス型金 具には小さな連携ベルトが取り付けられ ており、細いベルトながらダイニーマが 使用され結合されており十分な強度を持 つ。

う恐れがある。それを忘れないでくだ さい。

③対策について

レッグベルトつけ忘れの対策には何 通りかがあります。脱落防止システム が装備されているかどうか? フロン トコンテナ、レスキューパラシュート コンテナのみを取り付けても、脱落し ないシステムになっているのか? こ こが最も重要です。

おそらくほとんどのハーネスは、ハーネス単体では脱落防止が装着されていても、フロントコンテナに関してはオプションであり、コンテナを取り付けるにあたり、ハーネスのみの構造では限界があることになります。ここで重要なのは、自分のハーネスの構造、リスクを十分に把握することです。スクール生であっても、機材購入の時点で知っておく必要があります。

[対策1]

自分のハーネスの構造をしっかりと把握すること。そして、その欠点を理解し、ヒューマンエラーを無くす。セルフチェックを2回は行いましょう。

[対策2]

セルフチェックだけではなく、クロス チェック実施を徹底すること。ドイツ ではパートナーチェックともいいます が、他の方に確認をしてもらいます。最後に一人で飛ばないといけない場合には、しっかりセルフチェックをしたうえで、無線で『ベルト装着OK』と第三者に伝え、テイクオフ許可をもらいます。安全チェックを行ったと知らせることにより、お互いが安心感を得ることができるでしょう。

[対策3]

古い装備を新しい装備に買い替えること。未だに10年以上使われているハーネスを目にします。ベルト類の紫外線による劣化が進み、脱落防止システムが装備されていないものもあります。「怪我をしても自己責任ならいいだろう」というのは甚だしい勘違いです。事故が原因で社会的問題となり、パラグライダーも厳しい規制を負うことになりかねません。スカイスポーツが置かれている状況をよく理解し、身勝手なれている状況をよく理解し、身勝手なだきたいと思います。

着水

今年発生した着水重大事故のうち1件はモーターパラグライダーです。他人の機材を借りてフライトし、海上でスパイラル降下を始め、そのまま着水したというものです。機材に不慣れな

のか、体調の問題なのか、詳しい原因は わかりません。またもう1件は、山から フライトしたパラグライダーが、風の 強さと目標着陸地点の判断を誤り、わ ずかに川に着水し、風の影響で陸から 離れる感じでパラグライダーが水中に 引きずり込まれたというものです。

過去にも、川にキャノピー翼端が入り水圧でパイロットも川に引き込まれそうになった、実際に川に流されて溺死事故になってしまった、海に着水しラインに絡まれたためと推測される溺死事故などの例があります。また昨年は、浜辺で陸風のなか練習していて、海にもっていかれた溺死事故も発生しています。

水辺でフライトすることは景色も良く気持ちのいいものです。しかし、たとえキャノピーの一部でも着水すると、 状況は一転、最悪な結果をもたらすことがあります。

着水を防ぐために最も大切なのは、 無理をしない範囲で、常にゆとりを もってフライトすることです。自分の 能力限界ギリギリでのフライトは、た いへん大きなリスクを抱えて飛ぶこと なのです。また、個人のみの問題ではな く、それを見習う人もいることを十分 ご理解ください。

ハンググライダー整備認定者

2012年6月より試験運用されている「ハンググライダー整備票」。これは、JHF安全性委員会の認めたハンググライダー整備者が、ハンググライダーの整備を行う際、その整備記録と共にグ



ハンググライダー整備票ステッカー



整備無しに安全なフライトはできない。

ライダーにも整備票ステッカーを貼る という制度です。

この制度は、それまでは不明瞭であったハンググライダーの整備履歴を明確にすることを目的としたもので、これによりハンググライダーの整備者、および、整備日や整備内容を容易に確認することが可能となります。

このハンググライダーの整備を行う 整備者として、現在、JHF安全性委員 会は以下の方々を認めています。

茨城県連 安東正夫 茨城県連 板垣直樹 茨城県連 大沼浩 茨城県連 桂敏之 鳥取県連 川瀬力 郷田徹 東京都連 坂本三津矢 京都府連 岐阜県連 鈴木博司 茨城県連 大門浩二 和歌山県連 外村仁克

熊本県連 西本一弘 茨城県連 山本貢

(五十音順 敬称略)

この12名は安全性委員会が直接その整備技能を確認できた方々です。ほかにも適切なハンググライダー整備技能を有する方たちがいます。上記整備者以外の方で、ハンググライダー整備清量用指針をご理解の上ハンググライダー整備者を希望される方がいらっしゃいましたら、安全性委員会までご連絡願います。JHF認定のハンググライダー整備者として適格かどうか審議の上、ハンググライダー整備者として今後認定していきます。

なお、同制度は現在の段階では強制 力は持っていません。しかし、フライヤーの安全を守るうえで、確かな整備 技能を持ち合わせた方のハンググライ ダー整備を推奨します。

JHF安全性委員 山本 貢

2015年欧州レポート

報告:JHF教員・スクール事業委員/安全性委員/補助動力委員 伊尾木 浩二

今年で4年連続して欧州を訪問、 DHVなどをまわってきました。今回は 新しい技術を見ることより、今まで当 たり前とされてきた飛行技術について の認識の差を追求したいという気持ち がありました。この認識の差は、過去 の事故データから私が感じたことで あり、日本の輸入代理店やパラグライ ダースクール教員との話でも確認して きたことです。技術に対する考え方の 差を縮めたい、ある程度の統一性を求 めたい、それが今回の目的の一つでも ありました。

グラハン練習こそ重要

5月28日 Christian Maurer氏

Maurer氏と会うために昨年末から アポのトライを始めた。彼はこれまで ワールドカップなどで大活躍し、アル プス横断レースRED BULL X-alpsで 3度の優勝。最近ではスイス国内トラ イアングル300kmを達成したり、私か ら言えば超人……鳥人に一番近い人で ある。スイスに到着するギリギリでア ポが成立し1時間だけいただくことが できた。たまたま2日間の撮影目的で インターラーケンに戻るとのこと。指 定された19時に合わせ彼のホームベー スへ向かった。

間近に接するMaurer氏は、長身で細 身のとても優しい方であった。限られ た時間内でさまざまな質問をしたが、 丁寧に答えてくれた。

「質問1]

彼から見るスイスの事故はどのよう な傾向にあるのか、日本の現状も伝え て聞いてみた。彼はランディングアプ ローチ時のブレークコードの引き過ぎ による事故が多いと言っていた。失速、 スピンである。



Christian Maurer氏

[質問2]

彼がもし人に教える場合、一番重要 とする課題は何か?と聞くと「グラン ドハンドリング」と即答してきた。「飛 ぶ時間には限界がある。初心者なら尚 更でありグランドハンドリングは何時 間でも練習が可能だ」というのが理由。 彼自身、かなりの時間をグラハンして 鍛えたらしい。彼の弟もメキメキ上達 しているところだが、この時も隣で風 が強いなかグラハンに没頭している姿 を見た。

[質問3]

クラバット時の対応策は? 「グラ イダーを見て翼チップのラインへの入 り方を見て判断する」とのこと。結果、 「スタビラインとフルストールで使い 分ける」と言った。

[質問4]

ブレークラインの調整についてどう 判断するか? 「基本、ブレーク調整は 個人で絶対に行ってはいけない。調整 をする場合にはその機体を熟知したイ ンストラクターがアクセルを使って確 認し調整をするべきだ。」 ラップ (手 に巻く)についてはありだと言ってい たが、当然、グライダーの状態をしっか りと熟知しベテランパイロットが行う ことである。

[質問5]

緊急降下手段は一般パイロットに 何を推奨するか? 「Bストール、ス パイラルは勧めない。スパイラルはG フォースがかかるから。Aストールは まず絶対にやらない。基本、ビッグイ ヤーとアクセルの併用が有効手段であ る。」 昨年、エアーターコイズ社のAlain Zoller氏から聞いたことがある。小 柄な女性でも簡単に降下する方法、そ れは片翼を潰しての大きな逆旋回であ る。これもMaurer氏の見解からは「お 勧めできない」と言う。理由は「片翼を 潰すことにより体重変化が出て、きれ いなコントロールはできないだろう」 ということであった。

「質問6]

グライダーのEN基準による選択方 法について。「月に1、2回しか飛ばな い人はEN-Aクラス以外で飛ぶべきで ない」と断言。スイスでも自分の能力以 上の高性能グライダーを欲しがる人も いるという。これも大きな問題になっ ているとも言っていた。

[質問7]

安全に飛ぶためにアドバイスするこ と。「それは、自分のグライダーを自信 を持って飛ぶことである。自信がない グライダーでは絶対に飛んではいけな い。自信をつけるためには、たくさんフ ライトし、グラハンもたくさん練習を するということである。」

[質問8]

昨年のX-alpsで危険に感じたこと、 グライダーで怖い思いをしたことはあ りませんか? 「フライトする上で危 険、怖いことは一度も無かった。ただ、 敢えて言えば疲労が重なり判断能力が 低下し正しい判断ができているのか? ということが一番怖い。」

[質問9]

グライダーが進化し事故は減ると思 いますか? 「グライダーは確かに安 全になりつつあるが、フライトの仕方 は徐々に危険な方向に進んでいる。た とえば、安全なXCをするキャンプにお いても山際でアクセルを踏み込む以 上、事故は無くならないだろう。」

以上が会談内容だが、彼は決してイ ンストラクターではない。彼の助言が 一番とも言えない。しかし、技術力は世 界でナンバーワンレベルの彼の言葉は 重い。練習方法、グライダーの選択、フ ライトの仕方で事故に対するリスクは 大幅に変わると言えるだろう。

Maurer氏は今年のX-alpsにも参戦 する。彼の今後の活躍に期待し、応援も したい。

今回、スイスでプロタンデムパイ ロットとして活躍する三木さんの協力 のおかげで会談を行うことができ、通 訳もしていただいた。本当に感謝の一 言である。スイス情報もいただいた。今 後も情報交換を続け、三木さんも応援 したいと思う。

EN認証機関の統一性

6月2日 PMA

PMA (Paraglider Manufacturers Association) OCEO, Hans Bausenwein氏を訪問。Hans氏とは2度目の会



Hans Bausenwein氏

談である。昨年はHans氏の都合がつかず、副会長との会談だった。

午前中は会談し、午後は一緒に飛ぼうとHans氏から誘われた。前回は2時間程度の会談だったが、今回は一日準備をしていただき、空でのお付き合いに、お互いにより深い繋がりを感じることができた。

昨年の夏前にオーストリアではフライトできないというニュースが日本の雑誌を通じて飛び込んできた。もちろん、輸入業者を含め数件の問い合わせがJHFに来た。その時に私が調査を担当しHans氏に質問したのだが、しっかりと調べてくださり、翌日に回答があった。この件もここでお伝えしたい。[オーストリアでのフライト]

オーストリア人が所有しているライセンスを持たない、またはスクールを受講していない外国人パイロットでもオーストリア国内でフライトできるらに、いかに公的に実現していくか、自由に飛んでもらうことを模索している。おいで外国人のフライトレーニング飛行で幾度も救助活動を行うこととなり、外国人のフライトを規制してはどうかという話が出た。今ではこの湖でアクロをする人から保証金を徴収するルールが決められている。

こういった問題がきっかけで、各フライトエリアでは規制まではいかないが、ライセンスを求められたり、ライセンスが無いと飛べないよと言われたりすることが出始めた。オーストリアのAero Club、ハング、パラグライダーの元代表者であるSepp Himberger氏からの助言では、IPPIカードと賠償保険は必ず保持するように言われた。Sepp氏は現在、経済会議所の代表者であり、オーストリアの行政当局に対するハング&パラフライヤーの代理を務めている。

[ラインの色を統一]

昨年9月にPMAのジェネラルミーティングが行われた。そこでスクールのためにライン色の統一化が図られた。Aライン=赤、Bライン=黄、C, Dライン=青、スタビライン=緑、ブレークライン=橙。但し、このライン色は絶対という規制ではない。

[EN認証機関の統一性]

昨年も話題に上ったが、PMAは、三 つのEN認証機関の統一性を図るため の働きかけを続けている。

EN規格テスト運営が正しく行われているかを評価するEN認証機関として、ベルギーに本部を置くヨーロピアンアクレティレーションがある。ドイツではDAKKSという、自動車業界なども含めて適切に検査されているかを判断する大きな組織があり、DHVはここで認証されている。ドイツのEAPR社パラアカデミーでもDAKKSの認定を受けていると聞く。また、スイスではSUSという組織があり、エアーターコイズ社もこの組織に入るべく準備しているそうである。

各々がEN規格を認証するうえで、最低限の同じハードルをクリアすることにもなり、同等の審査基準にはなり得ないかもしれないが、近づく手段ではあると思う。その同じ土俵に立つにはエアーターコイズ社がSUSに認定されるか、または他国のDAKKSに依頼するかは不明だが、準備は進めているそうである。

[ドイツのスクール使用機]

ドイツ国内におけるスクールは EN-Aクラス以外のグライダーは使っ てはいけないというルールが、2015年 1月1日に施行された。

[ドイツのエアースペース変更]

ドイツの法律の変更により、エアースペースが変更された。

[ドイツとフランスの連盟について]

ドイツDHVはドイツ国土交通省から委任されているが、フランスFFVLはフランスのスポーツ省から委任されることになるという。そのため、変化が出てくるだろう。

独日の情報交換

6月3日 DHV

事務局長Klaus Tanzler氏、安全教育顧問のKarl Slezak氏、DHVinfo編集長のBenedikt Liebermeister氏と会談。

四度目のDHV訪問。これまでDHV側から情報を聞き取ることが主でありDHV側へのメリットは全くない状態だった。今回は日本で起きている全国パイロットセミナーの効果と目標を報告した。セミナーについては、DHVではスクールを通さず連盟がフライヤーに直接講義することはこれまでにしたことがなく、DHVも同じような方法を今後検討したいし、日本の動きにはとても興味があることも伝えられた。こういった情報交換が今回初めてできて、お互いの太いパイプがようやくできたように実感している。

[事故の情報分析]

DHVでは連盟加入者のみの事故分析をしており、国内、国外の事故データをまとめている。また、事故情報は小さな事故でも報告が上がるようになっており、正しい事故情報が整理されつつあると言っていた。過去には小さな事故を隠すところもあったが、最近ではかなり減っているとのこと。ドイツではスクール側からの報告義務もあることが、大きいかもしれない。

ドイツ人パイロットによる事故報告 件数は……

ドイツ国内:121件(3名死亡)

国外を含めると:221件(10名死亡)

スタート前の事故: 6件(ブレークコード絡みなどによる。3名重傷。うち2名はライン絡みをとることに集中し墜落)

クロスハンドライズアップでの事故: 3件(うち1名:体が地面に激突して約10秒意識不明)

テイクオフ時の事故:31件(うち14件重 傷)

気象条件悪化の事故:15件(たとえば、 フライト後突風に煽られるなど)

グランドハンドリングでの事故: 3件 (ヘルメットをかぶるように指導。うち 1件は頭部から落下、重症)

フライト時の事故:

は10m以下で発生。

コラップスの事故:60件(サイドコラップス36件、フロントコラップス11件 その他13件は詳しく報告されていない) 33人が重傷(うち2名死亡) 60件のうち42件は対地50m以下。22件

クラバットの事故:12件(機種はBクラスハイエンド以上の機種) 10名が緊パラ(緊急用パラシュート)を開く動作

を行う。7名は開傘、2名は投げるタイミングが遅い。1名はキャノピーに入る。

*ほぼすべてのパイロットがクラバットからスパイラルになる。ツイストして旋回維持した場合、経験豊富なパイロットであっても緊パラを投げる手段しか残っていない。

衝突事故:8件(パラ×パラ、うちタンデム1件、3件がパラ×ハング)3名のパイロットが重傷、1名死亡、1件緊パラが出なかった。2件は緊パラが開く高さが間に合わなかった。

*ホットスポット(フライヤーが集中する地域)に注意! 安全を心掛ける人にとって、自分の近くに3名のフライヤーが許容範囲。それ以上は逃げる!

スピン/ストール事故:22件(うち18件 重傷) ランディング場での片翼スピン、両側ストール11件、トップランディング3件、アウトサイドランディング時4件、サーマルソアリング中の引きすぎスピン4件

*雨の中では、たとえ小雨であっても絶対に飛んではいけない。トレーリングエッジに水が溜まったことによるキャノピー重量増加、迎角の増加、水滴による抵抗の増加によって、ディープストールの危険性が急速に上がる。もしフライト中に通り雨に遭遇した場合、パイロットは迎角を上げる操作は避けるべき(Bストール、ビッグイヤー)であり、アクセルを使って迎角を下げて機体にブレーキをかけないようにすることが重要。

スパイラル、アクロ事故: 3件死亡 障害物接触、ツリーランディング事故: 31件 ツリーランで3件が重傷、建造 物衝突で4件重傷(うち1件は足を切 断)

緊急用パラシュート開傘:28件(開傘理由:コラップス、クラバット16件、衝突7件、スパイラルダイブ3件、アクティブコントロール1件、グリップをつかむ練習中に強く引きすぎ開傘1件)タンデムの事故:9件(うち6件スタート時。うち2件トーイング、1件ランディング、2件フライト中) 3人の

トーイング事故: 7件(ブレークコード 問題、ロックアウト)

パッセンジャー、2名のパイロットが

死亡事故:10件(3件ドイツ 3件イタ リア 2件スイス1件ポルトガル 1 件オーストリア)

[会員数]

重傷

DHVの会員数は、この15年で2万人から3万5千人に増加している。

[フライト日数]

会員の平均フライト日数の分析を行い、年間20~30日のフライトと結果が出た。このフライト日数でどこまで安全にフライトできるのかを気にしている状況でもあった。

[賠償保険]

DHV側も日本のパイロットもドイツでフライトする場合にはIPPIカードおよび賠償保険は必ず必要ということを再確認した。DHVのフライヤー保険は最大賠償150万ユーロ、日本円で約2億円。通常の海外旅行保険は1億なので、このあたりは十分理解したうえで欧州でフライトされる場合には注意をしてください。

また、ドイツに限らないが、賠償保険 証明は、クレジットカード付帯保険で はその場で確認できないため却下され ることがある。その場ですぐに証明できるように準備する、または海外旅行保険証明書を提示すれば速やかに処理を行うことができる。

町をあげてのイベント

6月5日~7日 スペインジェルモジェルモ(Yelmo)のイベントは年に一度開催され、スペインでは最大級のパラのイベントということである。すごく多くの人たちで賑わい、町をあげてのお祭りだった。スペインでも過去には数ヶ所でこのようなイベントが開催されていたが、徐々に継続が厳しくなり、今ではジェルモしか残っていないという。

今回はパラのナショナルリーグ競 技、アクロバット競技、ハイク&フラ イ、モーターパラグライダーのフリー スタイル競技が行われた。メイン会場 では、あらゆるブースがテナント形式 でオープンされており、三分の一は飲 食コーナー、他はメーカーブランド、雑 貨、ワイン、ハムなどの業者が入ってい た。センターにはバンドグループ。裏 側にはメインランディング。モーター パラのパイロンも立てられていた。そ して、大きな建物の屋内ステージでは ムービーショーが行われており、パラ グライダーをテーマにした出品作品を 次々と放映し評価するコンテストも開 催されていた。そこには200~300イン チくらいの大型スクリーンが設置さ れ、200~300人は十分収容できる場 所だった。

メイン会場は朝の3時までオープンされていたため、真夜中まで賑わっている感じである。おそらく、3日間の来場者数は2万人くらいと想定される。もしかするともっと多いかも。

モーターパラグライダーは若手メン バーが目立っており、盛り上げを見せ てくれる感じであった。

スペインも国からスカイスポーツに 対しての動きが出ており、国家指導者 ライセンスも昨年度から発行されてい る。スペインはパラグライダーにおい て自由で盛んな国でもあるが、規制は 今後、いろいろと出てくるかもしれな い。ただ、このイベントを通じて得る内 容も多く、モーターパラグライダーに おいては大きな情報源となると感じら れた。



DHV事務局にて。左からLiebermeister氏、Tanzler氏、Slezak氏、伊尾木。



欧州と日本を結ぶパイプをさらに太く育て、安全性の向上を図りたい。

学連ニュース

■安全講習会レポート

春の恒例行事になっている安全講習 会が、先日6月12日に開催されました。

各大学から、今年ハンググライダー・パラグライダーを始めた新入生を中心に多くの学生が参加しました。今年は参加者が多く、例年の倍近い人数が集まりました。講師には、インストラクターの板垣直樹さんが来てくださいました。

大人数のため、ざわついていた教室 内ですが、話が始まると静かになり、学 生たちは真剣に話を聞いていました。 今回の内容はハンググライダー・パラ グライダーの特徴、他のスポーツとは 違う面白さについての話から、安全に 飛ぶための心得までさまざまな話を聞 くことができました。

興味深かったのは、昔の講習と今の 講習の違いです。板垣さんが初めてハンググライダーに乗ったのは、ハング グライダーがスポーツではなく、まだ まだ冒険の域にあった今から30年前。 講習の方法、レクチャーのしかたなど が確立されておらず、手探り状態だっ たそうです。初飛びの際は、テイクオフ にインストラクターさんがひとりつ いてくれるだけで、ランディングアプ ローチはひとりで行ったとのこと。今 の丁寧な講習を当たり前に思っている 私たちには驚くような話でした。初飛 びは誰もが少なからず緊張や不安を 持って臨むものですが、この話を聞く と今の初飛びは安心感があります。

パラグライダー・ハンググライダーは、この30年間で経験や知識が蓄積され、冒険からスカイスポーツへと確立してきたということが分かりました。そして、私たちは安全な講習を受けることができるようになりました。

今回の講習会では、重大事故の発生 件数などにもふれ、ハング・パラグライ ダーの実情を知りました。1年に数件 は重大な事故が起きています。このよ うな前例を知ることで、同じことを繰 り返さないためにどうすべきか考え、 自分自身に責任を持って飛ぶことが大 切だと思いました。そのためには、飛ぶ 前には体調を整えること、天気や風向 き、機体などの知識を持つことなども 必要です。このスポーツは、正しい判断をすることで危険を回避することが可能であり、他のスカイスポーツと比べても安全だと板垣さんもおっしゃっていました。

ハンググライダーとパラグライダーの世界が、これからの30年間ではどのくらい変わっていくのか楽しみになりました。また、この講習会に参加したことを生かして、私たちが安全に空を飛ぶことで、ハング・パラグライダーの危険というイメージが少しでも薄れていけば嬉しく思います。

報告:日本学生フライヤー連盟 安全講習会担当 小泉彩奈



板垣講師の話に、過去/現在/未来の安全性を考えた。

JHFからのお知らせ

■補助動力副読本の頒布を開始

「JHFパラグライディング教本副読本 [動力付きパラグライダー (補助動力技能証/ MPG技能証課程)] の頒布を開始しました。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、教本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにしていただくものです。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひお読みください。

価格:申込方法:

頒布価格は1,000円(送料別)。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイトの「書籍情報」からダウンロードできます。

なお、本書を読んだだけでは安全な 練習をすることはできません。必ずイ ンストラクターとともに練習してくだ さい。



■PG教本基礎技術DVD頒布中

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。リアライザーコントロールでの引きしろとブレークコードでの場合との違いや、A・Bストールを行ったときの翼の変形の様子などもわかります。

第2弾は、フライトの基本中の基本 であるテイクオフとランディングを 収録しており、フロントライズアップ の基本から場周アプローチによるラン ディングまで、各操作のポイントをつ かみやすい内容です。

価格:申込方法:

頒布価格はそれぞれ1枚1,500円(送料込)で、お申し込み10枚毎に2枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

■住所変更届けのお願い

JHFからお送りした登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻って来ます。また、登録更新のための会費送金手続きをコンビニでされた方、会費を口座振替にされている方へお送りした会員証も多く戻って来ています。コンビニから送金の場合は、払込票に新しいご住所をご記入いただいても控えが事務局に届きません。銀行口座振替の場合も住所変更の連絡は来ません。

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No. /お名前/変更 後のご住所/連絡先電話番号/メール アドレス

デジタル無線機は登録済みですか?

デジタル無線機をご使用の皆様、無 線機の登録手続きは、お済みですか?

JHFでは、ハンググライダー・パラグライダーの飛行中の使用無線機として、デジタル無線機を推奨しています。

現在、国内で飛行中に使用できるデジタル無線機「携帯型デジタル簡易無線機登録局(上空利用)」は、スタンダード(STANDARD)のVX-291SとVXD450Sの2機種です。これらは簡単な登録手続きだけで利用できます。

既に購入、使用されている皆様も、必

ず登録手続きを行い、利用料を払って 運用してください。

登録申請をしないまま無線機を運用 すると、不法無線局として処罰対象に なります。うっかり登録忘れのないよ う、ご確認をお願いします。

*各地区通信局では警察と共同で「不 法無線局」の取り締まりを行っていま す。不法無線局を開設したり運用した りすると、1年以下の懲役または100万 円以下の罰金に処せられます。

■各種お申込みやお問合せは JHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人日本ハング・パラグライ ディング連盟

〒114-0015

東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889

FAX.03-5834-2089

E-mail: info@jhf.hangpara.or.jp http://jhf.hangpara.or.jp/

*賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県、静岡県、岡山県在住の方には神奈川県ハング・パラグライディング連盟、静岡県フライヤー連盟、岡山県ハンググライディング連盟からのお知らせも同封していますので、ご覧ください。

東日本大震災被災地 復興応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005) 巣鴨支店(店番号770)

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・ パラグライディング連盟

JHFレポート210号

発行日:2015年(平成27年)7月20日 発 行:公益社団法人 日本ハング・パ

ラグライディング連盟(JHF)

編 集: JHF事務局 印 刷:株式会社美巧社